

参加型家庭教育講座 プログラム例

実施時期 就学時健診時(10月中旬～11月)

実施場所 教室、多目的教室など(グループワークができる環境)

準備物 ホワイトボードまたは黒板、付せん、付せんを貼る大きめの紙(B4またはA3)

	プログラム内容	ポイント
5分	<h2>アイスブレイキング</h2> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの普段の生活について質問し、当てはまるものに挙手してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな子どもがいることを確認する
	<ul style="list-style-type: none"> ●講座内容について話す。 ●5～6人のグループをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文字で明示する
40分 45分	<h2>ワーク「心配なこと、なあに？」</h2> <h3>1.グループ内で情報交換</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●入学するにあたって、心配していることや悩み事を各自で付せんに書き込む。 ●自己紹介を兼ねて、自分が書いた内容について話しながら1枚の紙(B4かA3)に貼る。 ●同じ内容のものをグルーピングする。 ●グループ内で意見を共有する。 <h3>2.意見発表・グループごとに、出た意見を紹介する</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●付せんを貼った紙を黒板に貼り、全体で意見を共有する。 ●出された感想について学校側がコメントしたり情報を提供したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心配事や悩み事を積極的に出してもらう <p>ガイドブックから1～2項目取り上げる。 学校や地域の実情にあわせた内容について活用するのが望ましい。</p>
10分	<h2>まとめ</h2> <ul style="list-style-type: none"> ●子育ての大事なポイントについて、ガイドブックを活用して説明する。 ●心配なことがあればいつでも相談してもらいたいということを伝える。 	<p>保護者と学校が連携して子どもたちの育ちを支援できるような関係をつくる。</p>

この講座は、参加者の「生の声」を引き出すことが大切です。気軽に発言できるように、クイズなどで場を和ませるとよいでしょう。

全員が情報を共有できるためにも、グループの人数は、多すぎないのがよいでしょう。

付せんに自分の意見を書いてもらうことで参加意識が高められます。また、他の人と同じような悩み事があれば、「悩みは自分だけではない」ことからの安心感が芽生えます。

付せんの数を決める必要はありません。時間や保護者の様子を見て2～3枚程度に決めておくとよいでしょう。また、情報交換の様子を見て、場合によっては助言してみてください。

出た意見について、学校生活に直接関係すること(学習、登下校、給食など)については、その場で学校側が回答すると保護者にも安心感が生まれます。